

令和5年度 第2回櫛引地域振興懇談会 (会議録・要旨)

○日 時：令和5年9月20日(水) 午後2時から午後4時30分まで

○会 場：櫛引庁舎 第一会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 釧持 孝文、遠藤 守、安野 良明、五十嵐 誠一、上野 由部、秋山 彌里、
清和 ふみ子、本間 与一、宮城 妙

(欠席委員) 釧持 康光、奥山 和行、佐藤 正幸、馬場 合、叶野 由佳、渡会 美香

(市側) 都市計画課長 五十嵐 泰彦、都市計画課管理主査 鈴木 崇、
都市計画課都市計画係長 若生 真人、政策企画課政策企画専門員 帯谷 友洋、
地域振興課地域振興専門員 斎藤 眞一、
櫛引庁舎支所長 天然 せつ、総務企画課長 遠藤 直樹、
市民福祉課長 佐藤 栄一、産業建設課長 佐藤 友志、
総務企画課課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査 河井 利恵子、
市民福祉課長補佐 佐藤 千冬、産業建設課長補佐 斎藤 秀一郎、
総務企画課未来事業推進員 阿部 綾

一 次 第 一

1 開 会

2 あいさつ

3 説明

(1) 5つの加速化アクションに基づく主な施策に(案)について

4 懇談

(1) 鶴岡市第2次総合計画後期計画地域振興の章〔櫛引地域〕(案)と櫛引地域振興計画
(素案)について (資料1～資料3)

(2) 櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況について (資料4)

(3) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンについて (資料5～資料8-2)

(4) その他

5 そ の 他

6 閉 会

.....

1 開会

総務企画課長

委員の皆様方には大変ご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は委員15名のうち、農繁期等の事情もありまして、少ないですが、9名のご出席をいただいております。

只今から、令和5年度第2回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。

最初に資料の確認でございますが、事前送付させていただいた資料一式(クリップ止めの資料1～資料3、資料4、資料5～資料8-2)と、本日持参依頼した現行の振興計画書でございますが、もしお忘れの方、資料がない方がいらっしゃいましたら申し出ください。

また、本日配布の資料として、本日の出席者名簿と席次表、第2次鶴岡市総合計画見直しのポイントの5つの加速化アクションA3判カラー刷1枚と、意見等記載用紙、を配布しておりますのでご確認をお願いします。資料はございますでしょうか。

それでは次第に従いまして、進めさせていただきます。

2 あいさつ

総務企画課長

最初に、当懇談会会長の区長会会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長

皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。第2回目の櫛引地域振興懇談会ということで、お集りいただきました。第1回目が7月に開催され、それから3ヶ月ほど経っていますが、いろいろまとめてもらって、今回素案が出てきましたので、2、3日前に資料が送付されて、皆さん読む機会があったかどうかはわかりませんが、丁寧にまとめてもらったと思っております。今年はあと2回ほど懇談会を予定しているとのことで、今年は中間年だそうで、これをまた2月ごろにまとめて、鶴岡市の方に出すということになるそうですので、皆さんの率直な意見を出してもらいたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。

総務企画課長

ありがとうございました。次に櫛引庁舎支所長より挨拶申し上げます。

支所長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中「第2回櫛引地域振興懇談会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まずは、第1回の地域振興懇談会に出席できませんでしたこと、お詫びを申し上げます。申し訳ありませんでした。

これよりは座ったままでご挨拶させていただきますことをお許してください。

皆様には、日頃から櫛引地域の振興発展のために、それぞれのお立場で大変ご尽力いただいておりますことに対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、今年は全国的に記録的な猛暑となり、鶴岡市でも熱中症の疑いで病院等に搬送された件数は134件で、過去10年で最多となっております。この猛暑の影響は農作物にも及び、稲作では玄米の中心が白濁する心白がみられ胴割れも懸念されております。また、畑でも同様に猛暑と乾燥の影響で規格外品や葉枯れが発生している状況であります。いずれも収量に影響が出ていることから、市では対策本部を設置し対策を講じることといたしております。

櫛引地域の特産品であります果物については、今、梨やぶどう等が最盛期を迎え、生育については平年と比べて早く、その分忙しさも前倒しという状況ですが、やはり収量に猛暑の影響が出ているとのことであります。但し、果樹は高温が幸いして糖度は平年よりやや高め、産直あぐりなどは美味しい果物で賑わっているようです。

新型コロナウイルス感染症につきましては、感染症5類に移行したこともあって、経済活動が活発化し、人々の行動範囲も従来並みに戻っております。一方でコロナ感染者が増加しているとの情報もありますので、住民のみなさんには引き続き感染リスクを気に留めるよう呼び掛けて参りたいと思います。

今年度、開館から20周年を迎えた王祇会館では、記念事業として、第14回黒川能保存伝承研究会が10月7日（土）に観世流能楽師 清水氏をお迎えして開催される予定です。皆さんも是非足を運んでいただければと存じます。

健康増進施設と位置付けられた櫛引温泉ゆ〜Townでは、昨年度の未来事業で取り組んだオリジナルキャラクター「ゆ〜たん」で集客が図られ、利用者が増加しております。皆さんも、猛暑で疲れた体のリフレッシュに、温泉入浴をお楽しみいただければと思います。

前回の7月の懇談会では、現在策定作業を進めております令和元年度から10年を期間とする「第2次鶴岡市総合計画」後期基本計画の地域振興の章の見直しと、その総合計画の裏打ちとなる「櫛引地域振興計画」の見直しについて、ご意見をいただきましたが、本日は、その見直しにかかる素案等についてご説明させていただきますので、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただければと存じます。

結びに、櫛引地域の振興、発展のために委員の皆様が日頃感じていることや、地域活性化に向けたご提言などを合わせてご発言いただきながら、限られた時間ではありますが有意義な懇談会となりますようお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

総務企画課長

それでは3の説明に入ります。なお、ここからは、設置要綱第6条により、会長から議長を務めていただきますので、よろしくお願いいたします。

会長

それでは(1)の5つの加速化アクションに基づく主な施策(案)について説明をお願いします。

(1) 5つの加速化アクションに基づく主な施策に(案)について

説明・政策企画課専門員

(上記について、資料に基づきながら説明。)

会長

今初めて聞いたことなのでなかなか難しいとは思いますが、今の説明に対する質問や、ご意見があれば出してもらいたいと思います。

政策企画課専門員

本日は全体版の計画案が無く、全体の計画のところから色々抜き出して記載させていただいているので、次の地域振興懇談会で、後期計画全体のものをお示しできると思いますので、ご了承くださいたらずと存じます。

A委員

一つだけお願いしたいことがあります。5つの加速化アクションの内容の説明がありましたが、最終的に、具体的に何をしていくのかというのが見えないと、賛同はできないので、具体的に見えるようにしていただければ有り難いです。

政策企画課専門員

ありがとうございます。こちらの資料で、加速化アクションの主な施策、取り組み例ということで記載はさせていただいてますが、こちらは取り組みの1つの例でございます、さらに

ここに5つの加速化アクションに紐づけられる取り組みや事業を、これから精査していきたいというふうに考えております。

A委員

この主な施策、取り組み例に言葉として様々出てきていますが、例えば、資料の一番上の、市独自の助成事業を実施のところに、特定不妊治療と書いてありますが、それはどういうふう
に独自なのかは見えません。また、妊婦や低年齢期の家庭と記載がありますが、なぜ低年齢
期なのかの意味がわからなかったりなど、こういったところを一つずつ見ていくと、もう少し
わかりやすく説明があると有り難いと思いました。

政策企画課専門員

わかりました。その辺りを計画本体の方にはこのまま書き込むわけではございませんので、
できるだけ平易な言葉で記載し、難しい言葉につきましては、注釈をつけさせていただく予定
ですので、こちらの方で注意して進めていきたいと思っております。

会長

他にありませんか。それでは、4の懇談とも関連してくると思っておりますので、懇談の中でまた
質問があれば出していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、4の懇談に入りたいと思っております。(1)鶴岡市第2次総合計画後期計画地域振興
の章〔櫛引地域〕(案)と櫛引地域振興計画(素案)について、資料1～資料3までの説明を
お願いします。

(1) 鶴岡市第2次総合計画後期計画地域振興の章〔櫛引地域〕(案)と 櫛引地域振興計画(素案)について・・・別添資料1～資料3

説明・総務企画課長・総務企画課長補佐

(上記について、総務企画課事業について資料に基づきながら説明。)

説明・産業建設課長

(上記について、産業建設課事業について資料に基づきながら説明。)

説明・市民福祉課長

(上記について、市民福祉課事業について資料に基づきながら説明。)

会長

盛りだくさんの説明がありましたが、頭の中で整理して、質問ありましたらお願いしたいと思
います。

皮切りに私から質問させていただきますが、今の後半の部分では出てきたのですが、現行の
⑤に記載がある赤川河畔エリア(櫛引総合運動公園、桜並木)の部分が、資料1-4の案には
出ていないのですが、入れなかった理由はなにかあるのでしょうか。なぜかと言いますと、現
在の櫛引地域振興計画の表紙には桜並木の写真が使われているのに、その記載を削除したのは
何か理由があるのかなと少し気になりました。

産業建設課長

資料3の櫛引地域振興計画の素案には詳しく書いているので、資料1－4は簡潔な記載になっています。

会長

その内容がどこかに含まれているという考え方ですか。

産業建設課長

総合計画の資料、7ページの1行目に、「それぞれが持つ地域資源の魅力度を高め」という記載がございますが、委員からご指摘のとおり、馬渡川の桜並木など、それらの資源一つ一つを詳しく説明はしておりません。これに関しては、地域振興計画(案)の方に、観光周遊ルートの形成等の関連で「櫛引赤川エリア」として項目を設けて「馬渡の桜並木」についても説明しているものです。

会長

区長会でもいつも問題になるのですが、桜並木の管理を馬渡にかなりお願いしてる部分が多いので、総合計画から抜いてしまうと、馬渡では知らないということが出てくるのではないかなと思うので、計画に入れておいて欲しいという意見があると思います。

産業建設課長

総合計画についても、文章の作り方を考えてみたいと思います。ありがとうございます。

会長

それともう一つ気になったのが、現行の中に将来の地域づくりのリーダーを育成という言葉が入っていましたが、これも抜けているようですが、何かに含まれているということで理解したらいいのでしょうか。地域づくりのリーダーはこれから必要になってくると思います。現在も自治会の役員になりたがらない人が多いです。やはりリーダーを育成していくというのは、これからの課題になってくるのではないかと思います。

総務企画課長

大変重要なポイントであるのは重々承知でございますが、そういった事業をしても、コロナの影響もあり、なかなか人が集まらないという事情もありまして、リーダーの育成という言葉を使わずに作文をしましたが、ただ、やる気がある人達の支援については、こちらとしても惜しまずにやっていきたいと考えております。なお、ご意見を頂戴しましたので、その記載の部分については少し検討させていただきます。

会長

どこかに含んでいるということであればいいです。

B委員

今おっしゃっていた若者の活躍の場づくりについてご質問なのですが、今課長がおっしゃっていたのは、人材育成や学ぶ場所の提供のようなイメージでおっしゃっていると思うんですが、実践的に活躍できる場というのが、おそらく櫛引エリアには圧倒的に少ないというか、場とし

てはほぼ無いように感じていて、それぞれの作られた個々の場所としてはあるとは思いますが、商店街のようなエリアが無かったり、中心市街地みたいなものがだんだん分散していったような状況だと思うので、その辺りの場づくりをランドスケープ的にもあると思いますが、ハード面も含めてになると思うんですが、戦略的にどうしていくか、計画していったほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。学ぶ場所はあってとても良いと思いますが、若者が活躍して、そこで仕事をして、経済的にも活動できるということが、結果的に地域が経済的にも強くなっていくんじゃないかなと思いました。

総務企画課長

ありがとうございます。リーダー育成については、生涯学習センターでもそういった講座は行っておりまして、そういった部分の記載を少し工夫したいと思います。また、櫛引の中で実践というのは確かに難しい面もあります。ただ、鶴岡の中心市街地では、そういった街づくりのリーダーを育成するような、色々なイベントは行ってますので、櫛引にエリアを絞って、そういったものをやるという必要もあるかもしれませんが、まずそういった市全体で行っているものに参加するのも一つの手かなと思います。なお、ご意見として検討させていただきます。

A委員

今のお話ですが、確かに難しいということはわかります。鶴岡の旧市内であれば人が集まりやすいのは当然わかります。だから日本はみんな中央集権国家みたいなもので、在がみんな駄目になっていきますよね。在を生かすためには何をしなきゃならないかというところで、難しいからなかなかできないというような考え方だったら、在はみんな滅びていくのではないのでしょうか。日本そのものだってそうじゃないですか。だからそこを何とかしなきゃならないからということで、切磋琢磨しているのだと思います。

現在、王祇会館にも台湾からのインバウンドのお客様が、随分来館されるようになりました。来週はアメリカからのお客様がいらっしゃいます。そういったインバウンドのお客様に向けたツアーを組んでくださる観光業者がいるわけですが、その方々と詰めて話をして、どういうふうにやったらもっと来てくれるかなど、それを合わせることも絶対必要になってくるわけです。それが一つで今、インバウンドには広めていくようにしています。台湾は来年度あたりから、1ヶ月に一つのグループを連れてきたいと言われてます。1ヶ月でどのくらい受け入れられるかという、体験をしてもらわないといけないので、10人程度であれば許容できるとお話をしています。そういうふうにして、こちら側で何をどう仕組むかということをやっているとなかなかできないのかなと思います。我々は実践で動いてるので、結局そうなるのだらうと思いますが、私が聞きたいのは、こちらの資料にも色々出てきていますが、様々な活動、事業をやろうとする中に、推進という言葉と支援という言葉が出てきますよね。行政として、推進と支援とはどういうふうに捉えているのでしょうか。

総務企画課長

なかなか難しいご質問ですが、推進というのは、基本的のこちらと一緒に進めていくという考え方です。

A委員

推進というのは、一緒にやるということだけではなく、行政が積極的に行うことだと思います。反対に支援というのは、こちら側で、こんなことをしたいのですが助けてくれませんか、

というのが支援だと思います。そうすると、こういうところには支援しますという時に、実際に動いてる人たちが何を欲しているのか、こういうことをして欲しいんだというのを、行政さんに要求しなければ、そこで行政さんが動けないじゃないですか。行政で支援しますと言っても、何を支援するのか。その具体性が見えないと、結局やりたくてもやれない人も出てくるのかなと思います。例えば、現在黒川で活動しているグループがありますが、今少し拡大化しようとしています。こしゃってマルシェさんの方にも、話が後でいくのかもしれませんが、11月23～25日あたりで、JRのツアーが入ってくるような仕組みを作っています。それを動かすための実行委員的なグループが、くろかわ農人という名前で活動していますが、今もう少し形を変えようとしています。そういった、楡引地域の小団体や個人で動けるものを持っている人をもっと捕まえて、計画立てをしてもらいたいと思っています。もう少し具体的に見ていただけると有り難いと思います。

また、私が今危惧してるのは小学校です。この計画は来年度からの5年計画ですが、この5年でおそらく東小学校は、生徒数がぐんと減り、いわゆる複式学級が始まるのではないかと思います。来年度入学する一年生も相当減っています。以前、鶴岡市の教育委員会から聞いたお話では、複式学級が2年間続くと統合になるということでした。今でもそうなのであれば、東小学校はおそらく10年以内には無くなると思います。その中で、例えば幼児教育をどう進めていくのか。学校教育そのものが、おそらくここ10年以内に楡引地域も相当変わっていくと思います。南小学校は、まだ子供たちの減り方がそんなに大きくはないですが、ここ10年以内の後半になるとぐんと減ると思います。そうすると、西小学校に全部吸収されるのではないかと思います。そういったところを長期的に見てどう考えているのか、それに対する幼児教育や、具体的にどうしていくのか。役所としての動きも、楡引庁舎だけではなく、例えば朝日や羽黒と連携して、そういった広域的なものでの特色づくりもあっていいのではないかと思います。

そういう意味で、大変申し訳ないですが、難しいや不可能というような言葉は私たちは聞きたくないです。できないのであればできないって言っていただいた方が有り難いですし、それでもやはり何かやりましょうという前向きさが私は欲しいなと思いました。

支所長

学校再編については、全市的に教育委員会で行っておりますので、私共では動けないという面があります。

A委員

ただ、同じ行政さんなので、どうなっているかを探ることはできるのではないのでしょうか。知識として、もしくは情報として持っておくことは必要なのではないかと思います。以上です。

支所長

今、小中一貫校の話題が出ている藤島では、渡前地区で、一年生が2人だけという実態も発生しているようですので、その辺は興味を持っていきたいと思っています。

あと若者の部分につきましては、くろかわ農人さんの活動も紹介されましたが、そういうグループも発生しておりまして、お互いに刺激を与えるという形で、交流の場も有効ではないでしょうか。こしゃってマルシェさんもそういうグループの一つだと思いますが、例えばこしゃってマルシェさんとくろかわ農人さんなど、そういうグループ同士での交流や、商工会でも若い人が活躍しているのかなと思いますので、そういう方々の交流の場を持つことでも効果は得られるのではないのでしょうか。

B委員

関連するかどうかわからないのですが、交流会もあつたらいいなとは思いますが、今全体的に、おそらく農工商×観光連携みたいなことで、この観光関係やフルーツの里ブランド化、あと黒川能関係など、そのあたりを含めた考え方でやられているのかなと思うのですが、同じようなグループ同士を合わせるといのもいいとは思いますが、例えば農業と観光だとか、工業系、商業系など、若者だけではなく、そういう他業種間で交流できる場もあつたらいいのかなと個人的には思いました。そうすると、行政がリードしていく部分もあるかもしれないですが、活躍されてる方同士でのコラボだとか、そういった動きも出てくると、もう少し活発になっていくのではないかと思います。ただ磨いていっても、おそらく誰にどうPRしていくかというのがないと難しいと思います。A委員がおっしゃったように、実際に台湾からのお客さんが来るという状況がある中で、ただ磨いてるだけでは非常にもったいない感じがします。ここで連携できるものがあれば、どんどん連携していきたいです。

支所長

イメージ的には情報交換の場、互いに刺激し合う場、そういうイメージです。

A委員

観光協会でそこを何とかこじ開けようとしているわけですね。

C委員

色々な努力というか情報集め等は、結構皆さん方から話は伺ってるのですが、現実問題としては、それを繋げるというのは大変至難のわざです。櫛引地域にいいものがたくさんあると言いながら、それは一つの点ですべて終わっていると思います。それぞれの各1回1回のイベントでバラバラで終わってしまっているというのが現状だと思っていて、できるだけ面的になにかできないかということで、櫛引だけじゃなく、現在は朝日とも交流しながら、その一つのラインとして捉えられないかという努力はしているのですが、先日の話し合いの中では、共通した項目としては、やはり六十里越街道だろうということになりました。ところが実際問題、六十里越街道の櫛引エリアのところは、大変条件が悪くなっています。その辺もどのような形でやってもらえるのか、行政側が支援しますと言ったとしても、具体的にやるのは地元の人たちで、それも年に1回の草刈りで終わってしまう。その時期はいつってなった時に、シーズンオフに変えるという、ちぐはぐなやり方になってしまう。同じ支援をするのであれば、観光できる間に1回だけではなく、市の力も出して欲しいです。地元の方でも当然協力しますというある程度頑張る人たちもまだいますので、そういうことをそこから繋げていかないと、何も出てこないというのが、大変遅れてる現状だと思います。だから、一つ一つ頑張ってることをいかに結んでいくかという努力を、やはりそれは皆さんでやってくださいっていうのか、いや行政としても是非こういうふうにするんだったら支援しますよ、こんなことやったら面白いことができますよ、というような、形ができるのかどうか。あくまでも、皆さん方でやるのが建前ですよと言って放り出されてしまうのかっていうところが、なかなか現場としては力を出しにくいところだと思います。

黒川地区さんも大変頑張っていますが、子供の問題があり、学校の問題でも、個人的な話で大変申し訳ないのですが、今年の夏休み中、学校のプールは1回も開いてないですね。これだけ猛暑続きの夏休み中、学校のプールは開いてないと思います。

総務企画課長

全市的な申し合わせで、開かないことにしたという記憶を持っていましたが、正確なところは不明です。

C委員

全市ではないと思います。部分的にと私は聞いています。それはすごい残念なことだと思います。なぜかという、地域で人的に協力する人がいない、金銭的に厳しいというのであれば、地域の方々に、子供たちを午前中1時間2時間くらいプールで遊ばせたいんだよね、というときに、地域の人たちの協力を得るとか、そういう努力は必要なのではないかと思います。それを行政が、私たちから頼むわけにはいかないとか、そういう問題ではなく、子育てするのに地域も巻き込んでやりましょうと言いながら、地域に協力を願わないというのは違うのではないかという気がします。行政と地域は別物みたいな雰囲気を作り上げられてるようなところが大変気になってるところです。やはり一体となって、どういうふうにやったら子供たちの良い育て方、良い環境を作れるかというようなところを、お互いにやらなければいけないと思ういます。地域だけや行政だけに任せるのではなく、なぜ一体になれないのか。お互いどのような力を出せるのかというところを話し合いしていかなければいけないのではないかと考えています。同じようにこの地域づくりも、私は以前にお金を持ってきてくれという言い方をしました。ものすごく端的な言い方をしましたけれども、先ほどA委員が言ったことは同じことだと思っているんです。地方周辺の必要などころにお金を使ってくれないんですよ。そこが最大の問題だと思っています。だから、やはり我々が必要などころにお金出してほしい、支援してほしい、というのが、私たちの声なのではないかと思います。中心市街地は黙ってても人が集まるので良くなりますよ。周辺地域からみんな旧市内に行くんですよ。それでも鶴岡市の人口は減っていますが。周辺地域は減りっ放しで、このままだったら合併前の半分くらいになり大変なことになるのではないか、この地域が維持できなくなるのではないかなってというのは脅威です。あまり関係ないような話ばかりになりましたけれども、そう思ってるのが現実です。

総務企画課長

学校の地域の関係は、現在コミュニティスクールや地域共同活動などが始まってきていますので、その辺はこれから良い方向に向かうのではないかとと思っています。学校のプールの開放については学校教育課に伝えたいと思います。

A委員

その前の話ですが、私は現在、東小学校の会の会長をしておりますが、学校側が以前もこういう組織は作られていたんですよ。いわゆる、学校を支援する地域の組織です。それは私も朝日中の時から経験していますが、今現在やられている内容が、学校が楽しようとしているような形の仕組み方をしてるんですよ。それを校長にもお話しましたが、その中で何のための支援をする協議会なのか、組織なのか。子供たちを育てるための会のはずですよ。子供がいなければ学校は要らないです。そこが一致していないように思います。だから、それと同じようにして、先ほど言ったように、推進と支援ってどう違いますかという話と同じことで、ブランド化支援とありますが、ブランド化とはどういうことをブランド化というふうイメージしているのでしょうか。そのブランド化というものが、地域のフルーツを作っている方々はどういうふう捉えているのでしょうか。その一致がないと、もしくは、それでそこで戦って

いかないと、このブランド化面白いよね、じゃあやりましょうという力になっていかないと思います。だから、先ほど宮城さんもおっしゃっていましたが、そういうことが話し合える場や、それはフルーツに関してだけではなく、総合的にいろんな方々と接触し合うところから、いろんな面が出てくると思います。そういう組織を作るのは本当に難しいんですよね。自分も経験してありますが、繋げるのも非常に難しい。その難しいところで組織を作るために、まずここでお願いしたいのは、やはり行政さんがその組織づくりとか、話し合う機会とか、そういったもの場を設定してくれると、地域の人たちは動き始めると思います。

手前みそで申し訳ないですが、鶴岡市、いわゆる田川地区から始まったんですが、今現在の鶴岡市の民俗芸能は、20数年前に一番最初に調べてもらった時は400団体ぐらいありましたが、今現在また調べてもらって、現在実際に活動している団体は200団体ぐらいまで落ちてきています。今、社会教育課さんをお願いしながら、何とかその民俗芸能を維持、継承、活性化させるために何かしらの力を持ちたいということで、民俗芸能のそういう組織づくりもしております。ただし、全部を入れるということは不可能なので、参加したい団体さんをまず中心にしながらやっけていこうとしています。今のころ実現しているのは、交流会でその民族芸能の悩みや、今何を必要としているのかとか、色々なこととお話しています。それと同時に、必ずやって欲しいかったのは、やはり発表する場がないと駄目なんですよね。なので、発表会という形で年に一度開かせてもらってますけども、最初に開いた時は出演料はありませんでした。出演料ゼロで、いわゆる民俗芸能なので、衣装や道具など様々あるわけですよね。それを使ってそれでもやりましょうという団体がやはり何団体かあります。今現在は、少しお金をいただきながらやれるところまできているのですが、組織化はこれからまだまだ時間はかかると思います。そこでもやはり入らないところ、積極的なところなど、いろいろあります。でも、やっけていこうとする力で、組織づくりをして高めていこうという動きを作ることは、とても重要なことだと私は思っています。先ほど獅子舞と天狗舞がありましたよね。獅子舞に天狗舞がきっちりくっついてるのは、櫛引地域の神社しかないんです。他のところを調べても、この二つがいわゆるペアになっているところはほとんどないんです。とても特徴的なんです。こういったところも知識として、または皆さんがそういったことを知りながら、天狗舞と獅子舞を大事にするためにどうしていかないといけないのか。だからその調査は本当にありがたいと思うので、具体的に行っていただきたいのですが、これももう10年か20年前ぐらいですが、松根でも天狗舞があったのですが、いわゆる、槍を担ぐ人が必要なのですが、その担ぐ人がいなくなってしまったんですよ。しょうがないということで女の子に担がせたことがあるようです。そうしたらやはり地域のご年配からは不満の声が若干あったらしいですが、その後は解消されてやってきましたが、今天狗舞を松根でまた復活させたようなこと言われていました。なので、できるだけそういったものの調査を早くしないと、あつて欲しいものがなくなってしまいます。ですから、ここに書いてある、やろうとしてることは何も間違っていないと思います。だから、そのやろうとしてる事の中で、推進や支援というのは、本当はもっと具体的に、こういったところで支援しますよっていうのが見えると有り難いです。ただ、提出する文章としては、そこまで細かくは入らないと思うんです。それはわかります。だから、その具体的ところで、地域民に対するPRとそれと同時に、色々なことが話し合えるとか、例えば資本金や支援金、補助金など、こういったものにこういうものが使えますよというようなものを、積極的に教えていただきたいと思います。これは民俗芸能は特にそうですが、ものを修理したり修復したりするときは、もの凄くお金がかかります。やはりそういう補助金を使っていかないいけない。そういう文化的なものだけじゃなく、産業的なものでも色々なものがあると思います。だから、それを知っている人が多くなる必要があるかと思えます。そのためにも、支援すること、それ

から推進することの具体的な部分が見えないといけないのではないかと思います。

総務企画課長

わかりました。A委員からあった通り、なかなかこの計画に細かいところまで載せきれないので、情報提供や相談などを具体的に実施することで、頑張っていきたいと思います。

D委員

先ほどA委員がおっしゃっていましたが、これから小学校の合併もあるのではないかと考えています。各小学校、中学校に、50年、60年ほどの間、制服を今までずっと納めてきたので、いつでも人数が何人になったというのがわかります。今後、おそらく東小学校が一番減っていくのではないかと考えています。西学区では住宅も増えていますが、これからの将来の課題だと思っております。

もう一つは、KCTですが、櫛引と朝日での占拠率がどのぐらいなのかお伺いしたいです。KCTを付けている家庭がどのぐらいあるのかというのはわかりますか。

総務企画課長

加入率で言うと、櫛引は約80%、朝日が90%です。朝日はどうしても難視聴地域といえますか、ケーブルテレビに入らないとテレビが見れないという人が多いので、高めになっています。

D委員

その入っていない家庭には、入ってもらうような働きかけはしていますか。

総務企画課長

転入してきた時はPRしておりますが、すでに住んでる人には積極的な勧誘はしていません。

D委員

やはりこれも各家庭の通信料で運営していると思うので、その辺も努力は必要ではないかと思えます。

それからもう一つですが、櫛引にはスキー場があるわけですが、朝日の場合は学校そのものがスキーに力を入れておりますが、全然スキー選手が育っておらず、試合に出たということも無いので、この辺も私は、スキー場があるところにしては、ちょっと変だなというふうに思っております。以上です。

会長

産業建設課で何かありますか。

産業建設課長

スキー教室については、櫛引地域の3小学校でシーズン1、2回ほど実施しており、全くやっていないわけではございません。昔よりも減っているかもしれませんが、現在も櫛引地域の小学校でスキー教室は行っております。

会長

それでは時間が迫っていますので、とりあえず（１）は終わらせていただきます。

次に、（２）櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況についての説明をお願いします。まだ（１）の質問も受けておりますので、まず（２）の説明を聞いて、またお願いします。

（２）櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況について・・・別添資料４

説明・総務企画課長

（上記について、総務企画課事業について資料に基づきながら説明。）

説明・産業建設課長

（上記について、産業建設課事業について資料に基づきながら説明。）

説明・市民福祉課長

（上記について、市民福祉課事業について資料に基づきながら説明。）

会長

以上で説明は終わりました。今の説明に何か質問がありましたらどうぞ。

産業建設課長

資料に一カ所訂正があります。資料４の１ページ目の一番下に、綴れ織り文化保存事業の記載がありますが、事業期間が令和５年までとなっていますが、こちらは昨年度で終わっていますので、令和元年から令和４年までに訂正をお願いいたします。

A委員

一ついいでしょうか。山添高校の件ですが、鶴岡にもう一つある廃校の温海高校は、随分前に廃校になっていますが、そのままになっていますよね。温海地域での活用を模索したりはしたけれども、結局駄目だったんですよね。ですから、山添高校はそうならないようにしていただきたいです。駄目であれば早めに壊してもらったほうがいいと思います。是非県の方でも考えていただきたいです。壊すだけでも相当費用がかかりますよね。更地にしてしまえば、次の何かを考えられるのではないかと思います。

総務企画課長

そこは粘り強く、県に訴えていきたいと思います。温海高校だと場所的に厳しいという面がありますが、山添高校周辺は、市内から見れば郊外地ですが、櫛引の中では１等地だという説明をしまして、県からもご理解はいただいております。

A委員

私は非常勤で５年間、山添高校に通わせてもらっていましたが、校舎の中が相当傷んできていて、そのままではやはり使えないと感じました。

会長

それでは最後の議題になりますが、（３）鶴岡市中心市街地将来ビジョンについての説明を

お願いします。

(3) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンについて・・・別添資料5～資料8-2

説明・都市計画課長・都市計画課管理主査

(上記について、資料に基づきながら説明。)

会長

この課題については、皆さん初めて聞いたような課題だと思いますが、何か質問はありますでしょうか。

B委員

4ページのビジョンの検討体制のところ、ビジョン中間案の展示っていうのが、12月ごろまでに公表してもらえるようなタイミングになるかと思うんですが、その時に、絵やビジュアルみたいなものは、作る予定があるのでしょうか。あと1点、骨子案のイメージ図、たたき台のところ、写真を配置していただいて、非常にイメージしやすくなっているかと思いますが、街のスケールが合っていないと思うので、できればたたき台としても、人口だとか、どのあたりの都市部なのかということも含めて、もう少しイメージしやすい写真を選定していただくと、よりわかりやすいかなと思いました。質問は、絵があるかどうかということなんです。

都市計画課長

ビジョンの中間案の展示は、一定の場所に広げてお見せするというのもあると思いますし、ホームページ上でお知らせするというのもあると思いますが、いずれにしても、イメージできるようなものはあった方がいいだろうと考えております。それからこのイメージ図ですが、街の規模が合っていないのではないかとご指摘ございまして、その通りだと思います。これはあくまでもイメージで、これが全部鶴岡で実現できるわけではありませんが、日本全国にはいろいろすばらしい取り組みをしているところがあるということは確かな事実であって、鶴岡市は鶴岡市なりのやり方で、鶴岡市にあった取り組みをしなければならないと思います。

会長

全体を通してでも結構ですので、何か意見や質問はありませんか。

C委員

致道館高校になりますよね。当初から、鶴岡南高校を高校の校舎に、鶴岡北高校を中学校の校舎に使用するという案が出ていましたが、例えば、郊外の広い敷地にまた新しく校舎を建設するという発想は全然出てこなかったのでしょうか。県レベルの話だというふうに言いながら、当然鶴岡市のことですので、市で全然何もなかったというのは、私個人的には疑問に思うところです。特にこの中心市街地の将来ビジョンに関係している部分で、大変重要な位置にあると思います。

都市計画課長

致道館中学、高校がなぜ既存の校舎を利用して、ああいう形になったのかということについて、明確な経緯を私は承知していないのでお答えはできないのですが、ただ、子供の人口は着

実に減ってしまっている。その状況の中で、新しい学校の校舎を建てるとすると、今の鶴岡北高校、南高校の校舎はどうなるのか。既存のまだ使える校舎をできるだけ有効活用してやりたいということではないかと思えます。

C委員

県の職員みたいな言葉が返ってきましたが、個人的にはただ、庄内にあまりお金を使いたくなかったというのが県の本音ではないかと勝手にそう思っている一人です。

A委員

中心市街地のビジョンを考えることは非常に重要なことだと思いますが、例えば、イベント広場のリノベーションが例で出ていますよね。先ほどの、新しい学校を既存の場所ではなく、もっと外側の広いところに持っていけなかったのかということと同じような発想ではあるんですが、こういった箱物的なものをすべて中心市街地の中で設備に投資していくことがプラスなのでしょうか。例えば荘銀タクトは今どうなっていますでしょうか。まず一番にそこで困るのが駐車場ですよね。中心街に歩いて行けるのは、その近くの人たちだけですよね。この資料の赤線で囲っているところの人口数と、外側の人口数はどちらが多いのでしょうか。だから、例えば、こういったような中心を活性化させるということは、外側の人達を呼ぶってことですよね。外側の人達が行きたいと思わないと駄目なわけですよね。だから、朝日と櫛引が入っているのだと思うのですが。だから、呼び込むための施設に今一番問題になるのは駐車場です。また、これは例に出して申し訳ないですが、南陽市の文化会館は、本当に箱物です。単なる箱で建ってますが、中は非常に使い勝手が良いです。荘銀タクトは全くその逆です。見た目はいろんな形になっているけれども、中に入ると非常に使い勝手が悪い。使い勝手が悪いと思うのは、どちらかというと役者側なんです。我々は古典芸能ですけども、実際に今ミュージシャンなどに知り合いがいるので話を聞いてみると、あそこには行きたくないと言っていました。なぜかと聞くと、あんな楽屋には入りたくないと言っていました。なぜかわかりますか。みんなガラス張りですよね。私も調べてみましたが、ガラス張りの楽屋は全国でどこにも無いです。なので、例えばこういった建物をセッティングする人ときも、活用する人たちのことをしっかり考えて進めてもらいたいんです。やはり在は在で、ひねくれた根性を持つ私のような人がいっぱいいると思うんです。市内にばかり建てて、あとこっちは何も持ってこないですよ、というように思う人もいます。私が朝日に行った時にすごく感じたのは、合併した時に、朝日の月山ダムで儲かったお金を全て持っていかれてしまうと、ある議員が言っていました。それと同じように、在の人たちというのはやはり中心地の人たちに対して、どうしてもひがみ根性というのは生まれてしまうと思うので、そこをあまり逆撫でしないように、行きたいねと思ってもらえるような形で、組織作り、そしてビジョンが、形づくられると有り難いのかなと思います。学校もそうですけども、鶴岡高校を建てるときに、藩主達が反対したらしいですよ。明治になってから藩校を高校に建てようとしてたのですが、建てようとしていたのに、鶴岡高校を建てますってなったので、そこで相当ぶつかったらしいです。なぜ反対したのかの理由は私も全然わからないのですが、逆に言えば、なぜ致道館高校としたのかというのを、生徒にしっかりと説明できるようにしておくべきだろうと思うので、教育長と今度会った時も話したいなと思います。以上です。

都市計画課長

イベント広場のリノベーションの例というのを挙げていますけれども、現在マリカのところ

に屋根のかかった広場があります。あそこをもう少し明るくできないかとか、銀座通りのD a d aの隣にもイベントができる広場がありますが、今はあまり使われてない。こういったところを、何か使いたくなる、人が集まりたくなる、そういう広場にリノベーション、簡単に言えば模様替えするということができないか、そしてにぎわいづくりができないかということを考えています。ただ、先ほどA委員がおっしゃった通り、活用する人のイメージを持ってやらないと、作った方がいいけど誰も使わなかったというようなことになりかねないので、そこは注意して参りたいと思います。

それから、駐車場の問題もありました。これもおっしゃる通りだと思います。町なかに住んでいる人はもちろん歩いて行けるわけですが、少し離れると、やはり近くまで車で行けないことには、そこに足が向かない、不便だということになるわけですから、中心市街地にも一定の駐車場が必要だと思います。そういうことも考えていきたいと思っています。

会長

はい。他に何かありませんか。

E委員

櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況についてですが、やすらぎの赤川河畔の話が出てきていなかったのですが、これは来年度からここに記載のある事業が始まる予定ということでしょうか。

産業建設課長

資料4の2ページ目の下から4番目に「やすらぎの赤川河畔」の記載がございますが、現在、工事は下流で行ってまして、櫛引地域の上流の工事については令和7年から3年間を予定しております。来年は、具体的に整備計画をまとめるため関係者の方々による話し合いを設けることとしております。その話し合いを踏まえ、令和7年から9年の3年間で整備していく計画になっております。

E委員

わかりました。

A委員

その赤川ですが、中洲の木が凄いですよね。赤川は一級河川なので、それも要求してもらえると有り難いと思います。そうでないと憩いのやすらぎにはならないと思います。また、中洲にハクビシン等の巣がいっぱいあるんです。そこから渡って、畑に被害があるというのが現実なんですよ。

会長

前回、中洲の木を切ってから、15年以上なってますもんね。

A委員

そういうところの木を切ると、鳥が住めなくなると反対する人たちがいますよね。赤川の木を切ろうとした時に、そういう人たちの反対もあったようです。木を切ってしまうと、そこにいた動物が出てきてしまい、その周辺に被害が出てしまうという話もありました。もし中洲を

大事にするのであれば、川をもう少し深く掘って、動物が渡れないようにするとか、何か考えないといけないと思います。

B委員

質問なんですけれども、この多極ネットワーク型まちづくりの図を見させてもらって、私は8年ぐらい前になりますが、コンパクトシティの会議みたいなものに参加させてもらっていたことがあったのですが、そのときにご説明いただいた話だと、旧町村の主要なエリアに、そういう拠点を設けて、旧町村毎でそのエリアに機能を集約していくというお話があったと思うのですが、そういった考え方でこちらの資料も作られているのかどうかというのと、もしそうであるならば、楡引エリアの拠点は、一体どこを想定されているのかということをお伺いしたいと思います。先ほどの山添高校のお話もありましたけど、あそこは結構良い立地なものですから、どのようになっていくのかなってということも含めてお伺いしたいです。

都市計画課長

B委員からは、鶴岡市都市再興基本計画の策定市民懇話会のメンバーとして、議論に参加していただいた経過があります。それで、宮城委員の記憶の通り、この図は、計画の図を引用しているものです。今宮城委員がおっしゃってくださったように、鶴岡市の中心市街地の中心拠点がまずあります。その他に、各地域には各地域の拠点があります。あとは大山なども拠点になりうると思います。その拠点は拠点で、ぐっとコンパクトにしつつ、中央もコンパクトにしつつ、中央には便利な機能がやはり集約されますから、そこには地域の拠点からバスであるとか、道路であるとか、鉄道であるとか、そういったものを整備して行きやすくするというのが、多極ネットワーク型まちづくりということです。中心だけが栄えればいいということではなく、中心はもちろん求心力がなければ駄目ですけども、地域は地域で、地域の核を設けないといけない。その場合に、楡引地域の拠点はどこなのかということなんですが、厳密にこの計画上、ここからここまでの範囲が地域の拠点ですというような定義はしていませんが、皆様、何となく誰でも自然に受け入れられるのは、この庁舎周辺が楡引の拠点であろうと思います。その拠点の中にある、山添高校はどうなのかということですが、今はまだ具体的に決まっていませんので、私からは何も申し上げられませんが、大きな遊休地、遊休施設ということでどうにかするという事は、地域の振興になると思います。

総務企画課長

補足しますと、私が申し上げているのは、今の校舎はくたびれすぎているので、壊した後に新しいものが必要ならば建てた方が、今後のランニングコストや一生のライフサイクルとしては、そちらの方が費用対効果としてはいいのではないかという意味で言っているのです。山添高校の敷地はあと使わなくていいという意味で言っているわけではないので、補足させていただきます。

会長

他にありませんか。

A委員

発想として、拠点地というと、やはり色々なものが集まったところを拠点として考えがちですよね。楡引の場合、例えば、たらのき代を拠点にしては駄目なんでしょうか。たらのき代を

拠点にした場合に、ここは通過点になりますよね。通過点でワンストップすれば、そこで人間はまた行動するという部分で、ラインとしての活用がありますよね。例えば、朝日はなぜ大綱で駄目なのでしょうか。大泉で駄目なのでしょうか。そういう発想も必要ではないかとおもいます。

都市計画課長

この図の中に、いわゆる地域の拠点の外側には、さらに小さな拠点というものもあります。今上野委員がおっしゃった朝日でいうところの大綱、地域の拠点のさらに周辺の小さな拠点ということで、そこはそこで一つの核を作るというふうに行っているところもあります。

A委員

小さな拠点はやはり小さな拠点で終わってしまうと思うんですよ。大きな拠点はやはり大きくなっていくから拡大化していくんです。だからその大きな拠点を、こういうイメージ、いわゆる役場があって学校があつてとか、そういうのではなく、これからここを拠点にしたらもっと広がりそうだよというところを探すとか。例えば、私はあぐり辺りを拠点にすると良いのかなと思ったりするんで、そういう色々な捉え方をしてもらえると有り難いです。

都市計画課長

果樹ということを見ると、やはり112号線沿いの辺りになるかと思いますが、そういう意味では、櫛引にはそばもあつたり黒川能もあつたり果樹もあつたりということで、資源に恵まれていると思うんです。それは櫛引の強みだと思います。

B委員

どちらかという、櫛引には滞在したり買い物したりするところがあまりないじゃないですか。なので、拠点がどこかって質問させてもらったのは、ここが大きい拠点、ここが中くらいの拠点ですよっていうのもあれば、その周辺で、今足りない、例えば買い物できるところや飲食できるところ、滞在できるところや活動できるところかっていうのを、もう少し集約できるのではないかなというふうに思ったりしてたものですから、市民に向けても、何かわかりやすい形で、この12月の時にでも知らせていただけるといいのではないかと思います。

会長

他によろしいですか。それでは、懇談の方を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

総務企画課長

会長、議長どうもありがとうございました。また、皆さんからも貴重な意見を頂戴し、大変ありがとうございました。

事務局の方では、特にその他は用意しておりませんが、何か皆さんからありますでしょうか。本日はいろいろ、初めて見た資料や事前送付しましたが見る時間がなかったとか、いろいろあろうかと思いますので、配布しているこの様式でなくてもいいのですが、今日言い足りなかった部分や、後から思い出したところとか、その他にいろんなこと書いてもらっても結構ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。また、街づくり未来事業の説明を現在の取組状況ということで説明申し上げましたが、C委員からももっとお金持ってきてもらいたいという話も

あった通り、未来事業だとなかなかハードとか道路とか施設などが、それで建てられるものではなく、ソフト事業がメインの事業でございますが、こういった事業してお金を持ってきてもらいたいという、そういう具体的なものがあれば、このその他のところにお書きいただいて、ご提出いただければと思います。

それと、今日はこれで終了いたしますが、次回は11月の下旬から12月頃を予定しております。今日いただいた意見も踏まえて、今回は素案ですが、次回は最終的な案をお示しできればいいかなと考えております。

それでは以上を持ちまして、今年度第2回目の榎引地域振興懇談会を閉会させていただきます。長時間どうもありがとうございました。

終了 16時30分